



IoT・AIとネットワーク

国際社会経済研究所(NECグループ)主任研究員

松永 続行



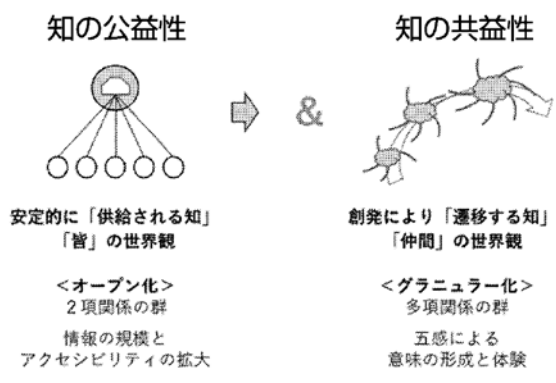
情報通信技術によって作り出される「知」には公益的な知と共益の知がある。公益の知とは、公的な、すなわち皆に良いことを、共益の知とは、仲間に良いことをするための知である。情報通信技術は、この半世紀も満たない期間で、社会に二つの知を作り出した。

公益的な知 1995年 1995年 オンのようなモバイル

次世代基盤に2つの「知」

行している。今、このSNSの上にシェア経済のための新しい仕組みが広がっている。公益的な知には、公

次世代情報プラットフォームにおける2つの「知」の構造



自由が集いながら、多観の中で構築されるのくの変動要素を持つ多項関係の中で問を作適応する柔軟な「群れ」であり、知の価値は流動的に遷移す

多形的な遷移とは、律的で多形的な遷移を生む。

あなたが生物がその生態系の中で、すみ分けや共存のための関係性を構築(ネットワーク)しながら自らも変化し発展するように、社会や産業の仕組みも、自らの仕組みやステークホルダー(利害関係者)とのつながりから発展する様子という。インターネットによるグローバルなつながりが、ステークホルダーとの関係性の範囲を格段に広げたが、さらに、共益的なつながりは、生態系の中で生る物が多様な機能を獲得し、その形も変え進化するように、自らの会社や産業の仕組みに自る。(次回は18日掲載)